

金融・金融行政の基礎知識

金融とは

「金融」とは何か？「金融」は直接目には見えないものなので、皆さんには想像しづらいかもしれません。私たちは、一体どこで「金融」と関わっているのでしょうか。

コンビニでの公共料金の支払い、企業の設備投資のための借入れ、債権・資産の証券化および売買・・・

私たちの周りで行われているこうした行為はすべて「金融」です。金融とは「資金の融通」、言い換えれば「世の中のお金の流れ」のことです。

あらゆる人々、あらゆる企業にとって、お金との関わりを完全に断ち切ることは不可能ですから、「金融」は経済・社会を支えるインフラである、とすることができます。

「金融」には、資金の余っているところ(とき)から資金を必要とするところ(とき)へ移すことができるという機能があり、この機能により、経済・社会を発展させ、生活の質を向上させることができます。

例えば、企業は株式を発行することで、バラバラの地域に住んでいて、相互に関係性もない多くの人から資金を集め、世の中に役立つ事業を興すことができます。

また、銀行から住宅ローンを借りることで、現在保有している資金以上に価値のある住宅を購入したりすることができます。

さらに、「金融」には将来の不確実性を回避するための機能もあります。

例えば、将来病気になったとき、入院や手術で必要になる高額な医療費をカバーする医療保険などが挙げられます。

このように、「金融」は私たちの社会生活の(目に見えない)インフラとして私たちに様々な恩恵をもたらしますが、一方で、予期せぬ事情変更が生じた場合、「金融」もその影響を受けるというリスクを抱えることになります。例えば、投資先である企業の突然の経営破綻により、購入した株式が価値を失うといった場合が挙げられます。

そして、「金融」はお金の流れですから、一度予期し得ないリスクが生じた場合、経済・社会に与える影響は非常に大きなものになります。例えば、1つの金融機関が破綻することによって、融資を受けている企業が資金を調達することができなくなり、連鎖的に企業が破綻するといったことが起こり得ます。

「金融」に内在するこうしたリスクを完全に排除することは不可能なので、リスクとうまく付き合いながら、世の中にお金がスムーズに回るように「金融」の仕組みを整備していくことが求められます。

金融行政とは

時代や地域によって金融の形態や担い手が変わることがあっても、「資金の融通」という金融の本質的な機能はどの時代、地域においても変わることはありません。

金融行政とは、このような金融の機能を十分に発揮させる仕組みを構築することによって、我が国の経済・産業を活性化し、国民一人ひとりを豊かにする仕事、すなわち、日本経済の根幹を支える仕事です。

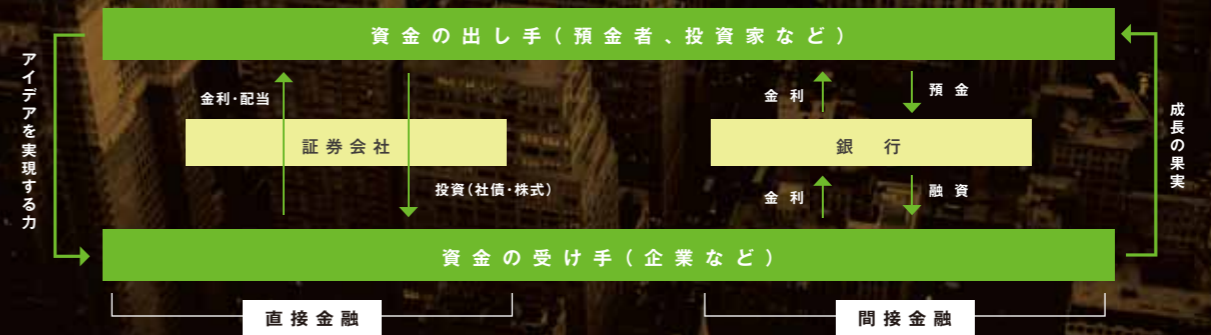
金融庁では、経済・社会のインフラである「金融」が十分に機能し、世の中にお金がスムーズに回る環境にするために、

- あらゆる人々、あらゆる企業が金融を安心して、便利に利用できるようにするためのルール作り
- あらゆる人々、あらゆる企業に金融サービスを提供する金融機関の検査・監督や市場での取引の監視等を行っています。

Introduction

直接金融と間接金融

金融の仕組みは大きく2つに分類することができます。



直接金融

資金の出し手と受け手が直接取引を行うもの

【金融機関(通常は証券会社)は取引をつなく存在】
例) 株式・社債の発行(企業が市場から資金を調達する方法)

金融行政の視点

- 多くの人々から資金の供給・調達の場として選ばれるよう、市場の信頼を確保し、市場の利便性・競争力を高める
- 資金の出し手が資金の受け手である企業の質を正しく判断することができるよう、企業が公開する財務情報の質を高める

間接金融

金融機関が資金の出し手と受け手の間に入って取引を行うもの

【資金の出し手、受け手はそれぞれ金融機関と取引】
例) 銀行からの借入れ(企業が銀行から資金を調達する方法)

金融行政の視点

- 金融機関が資金の出し手から円滑な資金提供を受けられるよう、財務・業務の健全性を確保するとともに、万が一の危機時に備え、セーフティネットを構築する
- 資金の受け手である企業に対して、金融機関が円滑に資金供給を行うよう促す